

アカデミー地区常盤台まちづくり構想（素案）

～工学部・高専と共創するまちづくりに向けて～

令和6年4月
宇部市

【目次】

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	背景・目的	
	対象地区	
	人口	
	関連計画	
2	アンケート調査・・・・・・・・	3
3	ワークショップ・・・・・・・・	3
4	課題の整理・・・・・・・・	4
5	目指すべきまちの姿・・・・・・・・	5
6	まちづくりの基本目標・・・・・・・・	6
7	将来のイメージ・・・・・・・・	7
8	まちづくり構想の実現に向けて・・・・・・・・	8

1 はじめに

背景・目的

日本の人口は、平成 20 年をピークに減少局面へ転じており、特に地方においては、人口減少・高齢化が著しく進行していくことが予測されています。そのような中、国においては「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的に様々な取り組みが進められており、施策の一つとして、魅力ある地方大学の実現と地域産業の創出・振興等による地方への若者の定着が求められています。

このような国の動向を踏まえ、本市においても「宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生の動きを加速させることを目指した施策を展開しています。

アカデミー地区常盤台は高等教育機関等が集積し、大学生や教職員など約 5,000 人が集う地区で、少子・高齢化が進む本市において、様々な可能性を有しています。

また、山口大学では、「地域と共創・共生するキャンパス」を目指し、工学部および工学部とときわ公園をつなぐエリア周辺において、大規模な建物の更新等が具体的に検討され始めています。

本市では、この機をとらえ、地区に新たな価値を創出し、若者が集うまちづくりを推進するため、市民や地域団体、教育機関、行政等が目指すべきまちの将来像を共有し、それを実現するための指針となる「アカデミー地区常盤台まちづくり構想」を策定するものです。

まちづくり構想とは・・・

市民や地域団体、教育機関、行政等が
まちの将来像を共有し、
その実現に向け進んでいくための
指針となるものです。



対象地区

- ◆ 上宇部地区と琴芝地区内で、高等教育機関等が集積し、地域資源のときわ公園に隣接する下図の範囲を対象地区とします。

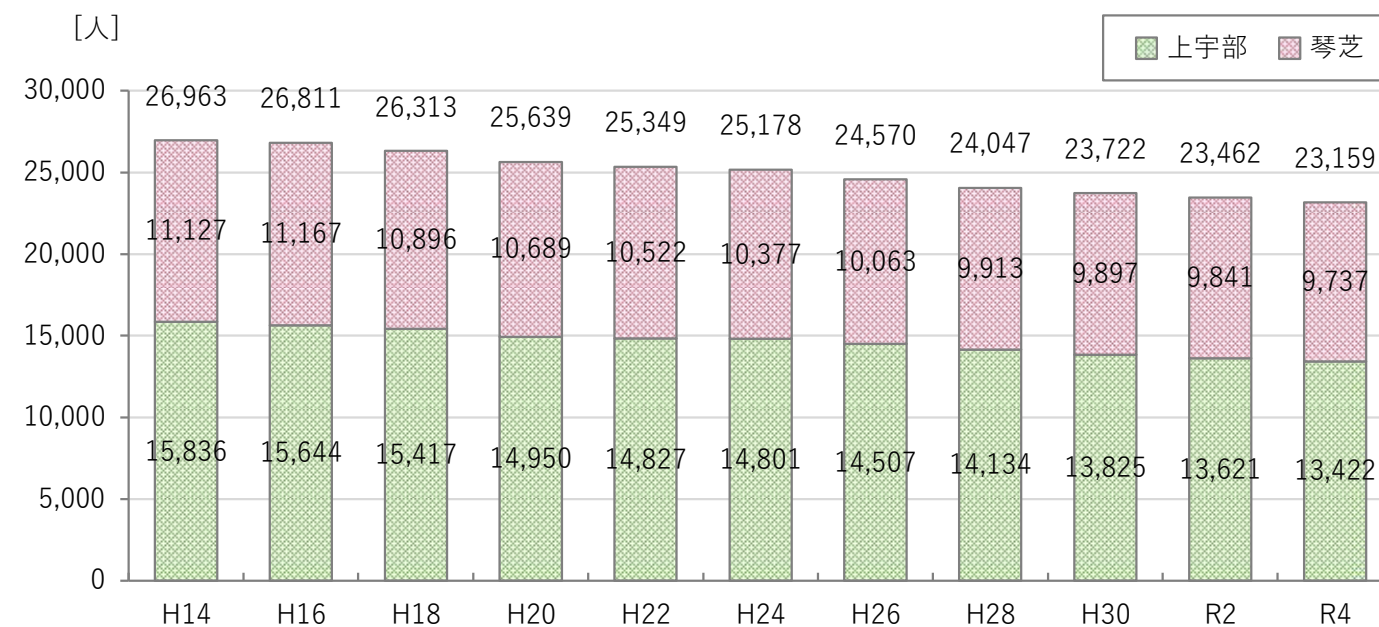
[対象地区]



人口

- ◆ アカデミー地区常盤台に含まれる上宇部地区は本市で最も人口が多く、琴芝地区も住宅地を中心とした土地利用がなされ、比較的人口が集積しています。
- ◆ 対象地区内には山口大学工学部と宇部工業高等専門学校等があり、人口に占める若者の割合が高い傾向にあります。

[上宇部地区と琴芝地区の人口推移]



資料：宇部市 地区別住民基本台帳

関連計画

関連する計画を以下に示します。「アカデミー地区常盤台まちづくり構想」は、関連する計画と整合を図ります。

[上宇部校区地域づくり計画]

○上宇部校区の将来像

宇部市発祥の地を誇りとし、みんなが健康で活気あふれた
交流のまち 上宇部

○今後の取り組み

・子どもの健全育成

「コミュニティ・スクールとしての小・中学校教育への
地域総がかりでの支援」「安心して子どもを育てられる子
育て環境の充実」の目標を掲げながら、子どもの健全育成
に取り組めます。

・地域防災の向上

「自らの生命は自らが守る」、「自分たちのまちは自分たち
で守る」ことを防災の基本理念として、災害に対する不断
の備えを進めるとともに、各種団体との相互連携を強めな
がら地域の防災力の向上を推進していきます。

・地域資源の活用

人の行動範囲や交流範囲が広がったこと等により、地域の
つながりを大切にする意識や地域に目を向ける機会が少
なくなっています。地域資源について、誰もが自分の住む
地域に目を向け、地域への誇りと愛着を持ってもらうた
めの機会を多く持つことが重要です。

[宇部市都市計画マスタープラン]

土地利用方針においては専用住宅地として
ゾーニングされており、良好な住環境の保全
や利便性の高い住宅地の形成を目指してい
ます。

[宇部市立地適正化計画]

立地適正化計画で居住誘導区域（暮らしのお
すすめエリア）に指定されており、居住誘導
を図っていく地域となっています。



[琴芝校区地域づくり計画]

○琴芝校区が目指す将来像

自然と歴史と未来がひびきあうまち 琴芝

○今後の取り組み

・地域資源の活用分野

琴芝校区の地域特性を活かし、つながりあい、活力ある元
気なまちづくりを目指していきます。“自分のまちは自分
たちで創る”という意識で取り組み、活力ある元気な琴芝
校区を創造し、次世代に引き継ぐことが必要です。

・健康づくり分野

校区民一人ひとりが、自らの健康に関心を持ち、互いにコ
ミュニケーションを図り、楽しみながらこころと身体の健
康づくりに取り組める琴芝を目指していきます。

・地域福祉分野

地域の生活課題に気付き、住民みんなで解決に向け協議す
ることで、全ての校区民が自分らしくいきいきと生きてい
ける琴芝を目指していきます。

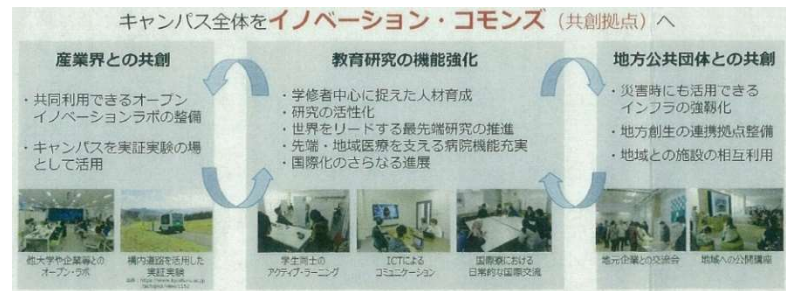
・子どもの健全育成分野

“地域の子どもは地域で育てる”という意識を高め、子ども
の健全な成長を支えることで、ふるさとへの誇りと愛着を
高め、若者がいきいきと活躍することを目指していきます。



[宇部「学研地域コミュニティ」創成に向けた基本構想（山口大学）]

地域をキャンパスとして捉え、留学生を含む全ての大学人と地
域の人々とが、互いの歴史・文化・民族・言語・宗教など、多
様性を許容し、新たな価値観を創出する、アジアの風を感じる
「ダイバーシティキャンパス」を創造することを目指してい
る。エリア全体を緩やかに結ぶ歩行者中心動線をネットワー
ク化・再構築することで、文教区としてエリア価値を最大化する。
更に工学部キャンパス周辺においては、大きな地域資源である
ときわ公園とグリーン・ネットワーク化を行うことで、「地域と
共生・共創するキャンパス」を目指す。



2. 常盤キャンパスの位置づけと地域連携フレームワークプラン

2-1. 地域・社会の中での常盤キャンパスの位置づけ

(1) 教育施設の集積を活かした新たな価値の創出
工学部キャンパスは、山口市下流部の都市公園である「ときわ公園」に近く、中心市街地や地域拠点と一定の距離を置く立地である。一方で、周辺には学部高等、学部中央高校、常盤中学など、教育施設が集中しており、閑静な住宅と自然豊かな環境でスクールゾーンを形成している。特に学部地域の形成と発展の歴史には重要な存在であるときわ公園の存在と併せ、学部の地域計画の一部として機能する高等教育機関の位置づけを明確化し、新たな価値創出を目指す。

(2) 地域の若者が集うサイエンスの拠点づくり
工学部キャンパスは、宇部市中心市街地から北東2.5kmの市街化区域に立地している。周辺は住宅地ゾーンで、常盤キャンパスが面する工学部通りを軸として教育施設が集積する文教区が形成されている。また、工学部の学生数は3,300人、教職員数も合わせて3,700人であり、少子高齢化・若年層の人口流出が著しい宇部市において若者が集う重要な拠点となっている。

2-2. 地域計画を見据えたキャンパス周辺の空間構造と計画理念



2 アンケート調査

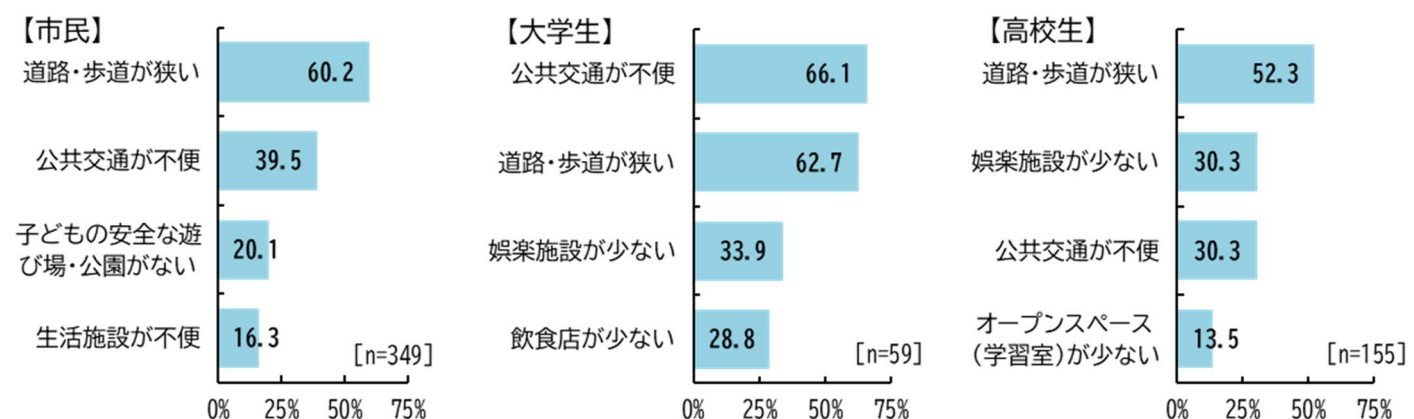
対象地区の現状や課題を把握し、山口大学工学部や宇部工業高等専門学校を活かしたまちづくりの可能性を探るため、市民や大学生、高校生、企業に対してアンケート調査を実施しました。

実施日：令和4年12月～令和5年1月

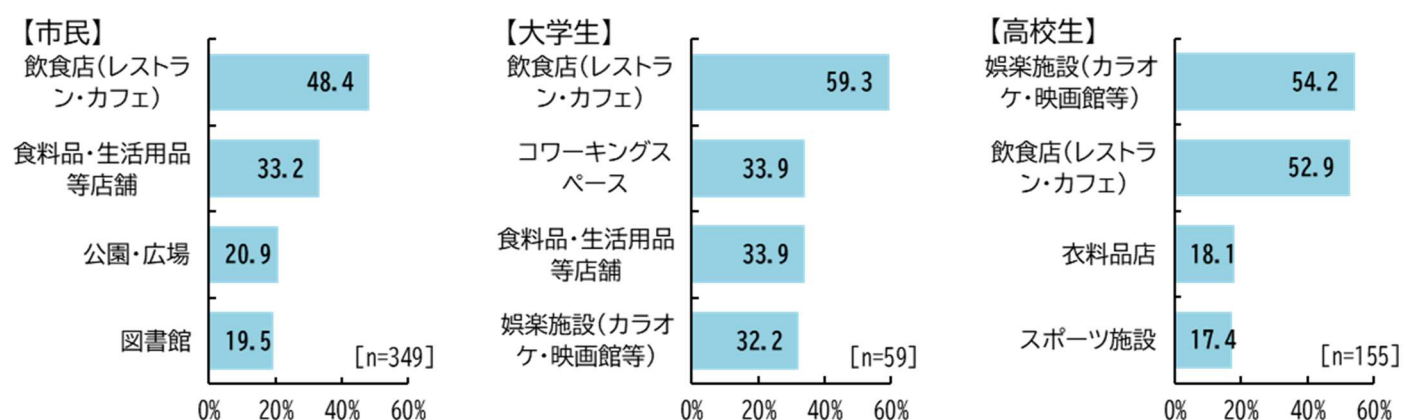
対象者：上宇部・琴芝地区の市民（20歳以上）、大学生、高校生、企業

回収数：上宇部・琴芝地区の市民：349件、大学生：59件、高校生：155件、企業：109件

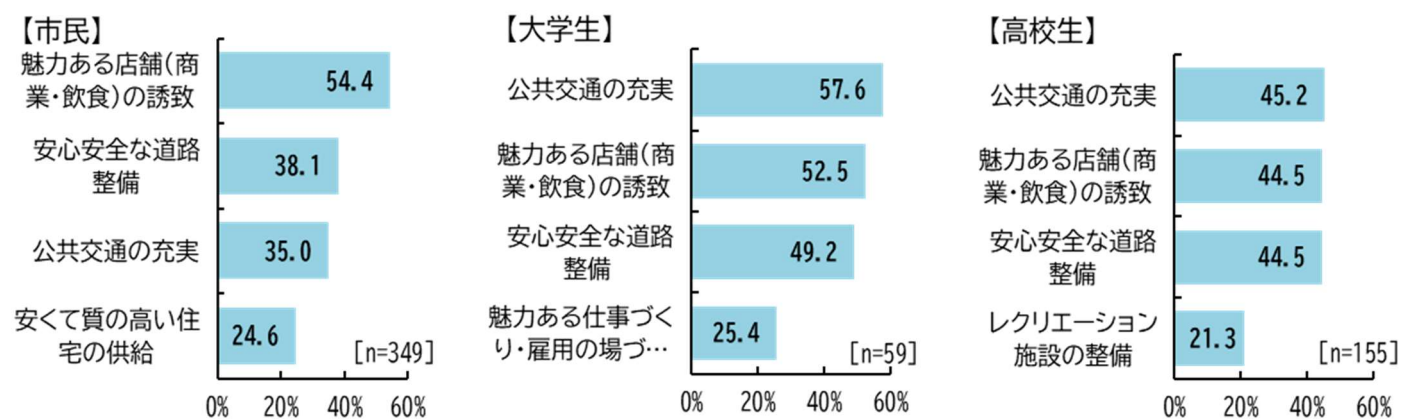
問 山大工学部・宇部高専周辺の困りごとについて教えてください。



問 山大工学部・宇部高専周辺にどのような施設・サービスがあれば、行ってみたいと思いますか。



問 山大工学部・宇部高専周辺で、若者が住みたくなる魅力あるまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。



3 ワークショップ

上宇部・琴芝地区にお住まいの方を対象に、まちの将来像やまちづくりの方向性について意見交換を行うワークショップを2回開催しました。

① 地区の特性



- **地域全体の特徴**
大学・高専とときわ公園が近い/中心市街地に近い
- **情報発信と学びのエリア**
学内にカフェ・図書館がある/広いグラウンドがある
- **歴史を残して伝えるエリア**
石炭の歴史や桃色レンガがある/水田跡地や用水路がある
- **みんなが集まる活動するエリア**
ときわ公園の景観が良い/観光している人や子どもがいる

② 課題の整理



- **地域と大学との連携**
地域の人が図書館や学食などを使っていない
- **ときわ公園**
出入りできる場所が限られている
- **交通・道路**
バス停を利用しにくい/歩道が狭い
- **防災**
大学・高専が緊急避難場所に指定されていない

③ 必要な取り組み



- **地域でできること**
定期的にイベントを開催/学生が地域活動に参加する
- **自分たちでできること**
空き家の活用やリノベーション/地域に関心を持つ
- **大学・高専でできること**
地域の人に大学・高専を身近に感じてもらう
- **行政で取り組むこと**
道路空間を整備する/バスなどの交通を使いやすくする

④ 優先順位を整理



- **ハード事業**
 - 道路空間の整備⇒歩きやすい道をつくる/交通渋滞の解消
 - 交通手段の見直し⇒バスの利用促進
 - 空き家の利活用⇒店舗の誘致
- **ソフト事業**
 - 地区の魅力向上⇒学園祭と、ときわ公園のイベントを連携させる/情報発信
 - 多世代交流⇒大学・高専が地域の人の集う場となる
 - 地域とのつながり⇒学生が地域の活動に参加する

4 課題の整理

アンケート結果、ワークショップの意見等を踏まえ、課題を整理しました。

分野		生活環境	交流・コミュニティ	産業・雇用	安全・防災
現状・課題		●大学生や高校生から地区に娯楽施設や飲食店が少ないことが挙げられています。 ●魅力ある店舗（商業・飲食）の誘致が求められています。	●山口大学は「明日の山口大学ビジョン 2030」で、地域と連携し、地域から信頼される大学になることを目指しています。 ●市民・大学生・高校生の 30%～50%が、地域のコミュニティ活動へ興味・関心を持っています。	●若者が住みたくなる魅力あるまちづくりを進めるため、魅力ある仕事づくり・雇用の場づくりが求められています。 ●企業と高等教育機関とのつながりが少ないことが雇用の問題点となっています。	●狭い道路や歩道が多く、通学や買い物など生活利便性の悪さが指摘されています。 ●バスの便数が少ないなど、公共交通の不便さが指摘されています。 ●新たな避難場所の設置が求められています。
ターゲット別 現状・課題	市民	<u>日常生活に欠かせない生活利便施設</u> ●徒歩圏内に生活利便施設が少ない ●飲食店や食料品店・生活用品等店舗が少ない	<u>子どもから高齢者まで安心安全に使えて集える場</u> ●子どもの安全な遊び場・公園がない ●大学施設を日常的に利用したい	<u>地域を担う若者を呼び込む仕事</u> ●人口減少・高齢化が進む中で、地域を担う若者が少ない	<u>良好な生活環境</u> ●移動手段として、公共交通が不便である ●道路・歩道が狭い ●交差点付近でよく交通渋滞が発生する ●災害時に避難する場所が近くにない
	大学生	<u>若者が使いやすい魅力的なサービス・店舗</u> ●食事や趣味・娯楽は宇部新川駅周辺や市外へ行く ●飲食店やコワーキングスペース、娯楽施設等が少ない	<u>学生が主体となったコミュニティ</u> ●地域のコミュニティ活動に興味・関心はあるが、活動の場がない	<u>得意分野・専門を活かせる仕事</u> ●市内の企業に興味関心のある学生は約 40% ●自分のやりたい仕事があることや給料・福利厚生が充実していることを就職条件としている	<u>学生が使いやすい公共交通</u> ●自動車や自転車での移動が多く、公共交通の利用が低い ●山口宇部空港や中心市街地への公共交通の利便性が悪い
	高校生	<u>若者が使いやすい魅力的なサービス・店舗</u> ●娯楽施設やオープンスペース、飲食店が少ない ●魅力ある店舗が不足している	<u>地元に愛着が生まれる交流の場</u> ●食堂・売店、体育施設を日常的に利用したい ●地域コミュニティ活動で、イベント・行事に興味を持っているが、実行に至っていない	<u>地元で働きたくなる魅力的な仕事</u> ●市内の企業に興味関心のある学生は約 50% ●自分のやりたい仕事があることや給料・福利厚生が充実していることを就職条件としている	<u>快適な交通環境</u> ●移動手段として、公共交通が不便である ●道路・歩道が狭い
	企業	<u>企業が出店しやすい環境・仕組みづくり</u> ●生活利便施設が少ない ●魅力ある店舗が不足している	<u>産学連携・地域連携によるコミュニティの活性化</u> ●山大工学部・宇部高専と連携した取り組みについて、市内企業の約 90%は実施したことがない ●産学連携への興味・関心は高いが、連携に関する情報や交流等、共有の機会がない	<u>地元の学生・高校生とのつながり</u> ●地元学生の採用は少ない ●リクルート活動の窓口がわからない ●大学・高専とのつながりがない	<u>快適な交通環境</u> ●若者が外部へ流出する要因の一つとして、交通環境の悪さがある

5 目指すべきまちの姿

課題から導いたまちづくりの方向性を踏まえ、目指すべきまちの姿を以下のとおり設定します。

○まちづくりの方向性

分野	生活環境	交流・コミュニティ	産業・雇用	安全・防災
方向性	<u>若者にとって魅力的な 店舗が充実する</u>	<u>誰もが気軽に大学等を利用し 交流している</u>	<u>先端研究拠点が形成される</u>	<u>安心・安全な環境が 整備されている</u>

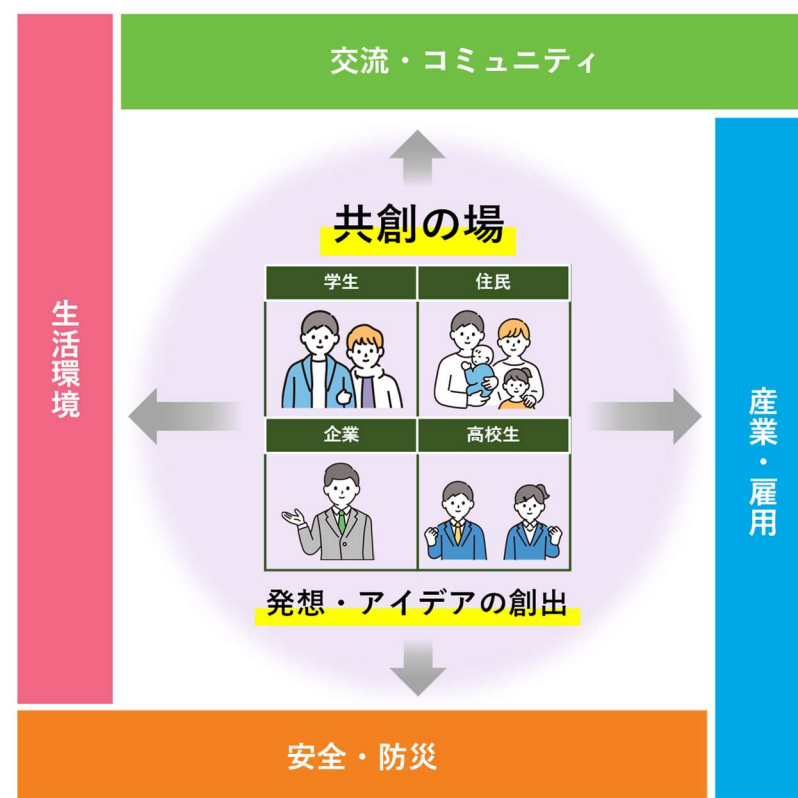


○目指すべきまちの姿（コンセプト）

多様な人材交流が新たな価値を生み出す ～若者と共創するまち～

地区の財産である若者が住みたくなるような環境づくりを進めるため、市民と大学生、高校生、企業等さまざまなステークホルダーが“交流する場”を設け、これまでにない多様な発想とアイデア、活動により、“新たな価値”を生み出すまちづくりを進めます。また、そのような“交流する場”として、地域資源である山口大学工学部や宇部工業高等専門学校周辺を位置づけ、交通や防災面が整った魅力的な共創拠点の創出を図ります。

○概念図



○共創の発想・アイデアのイメージ



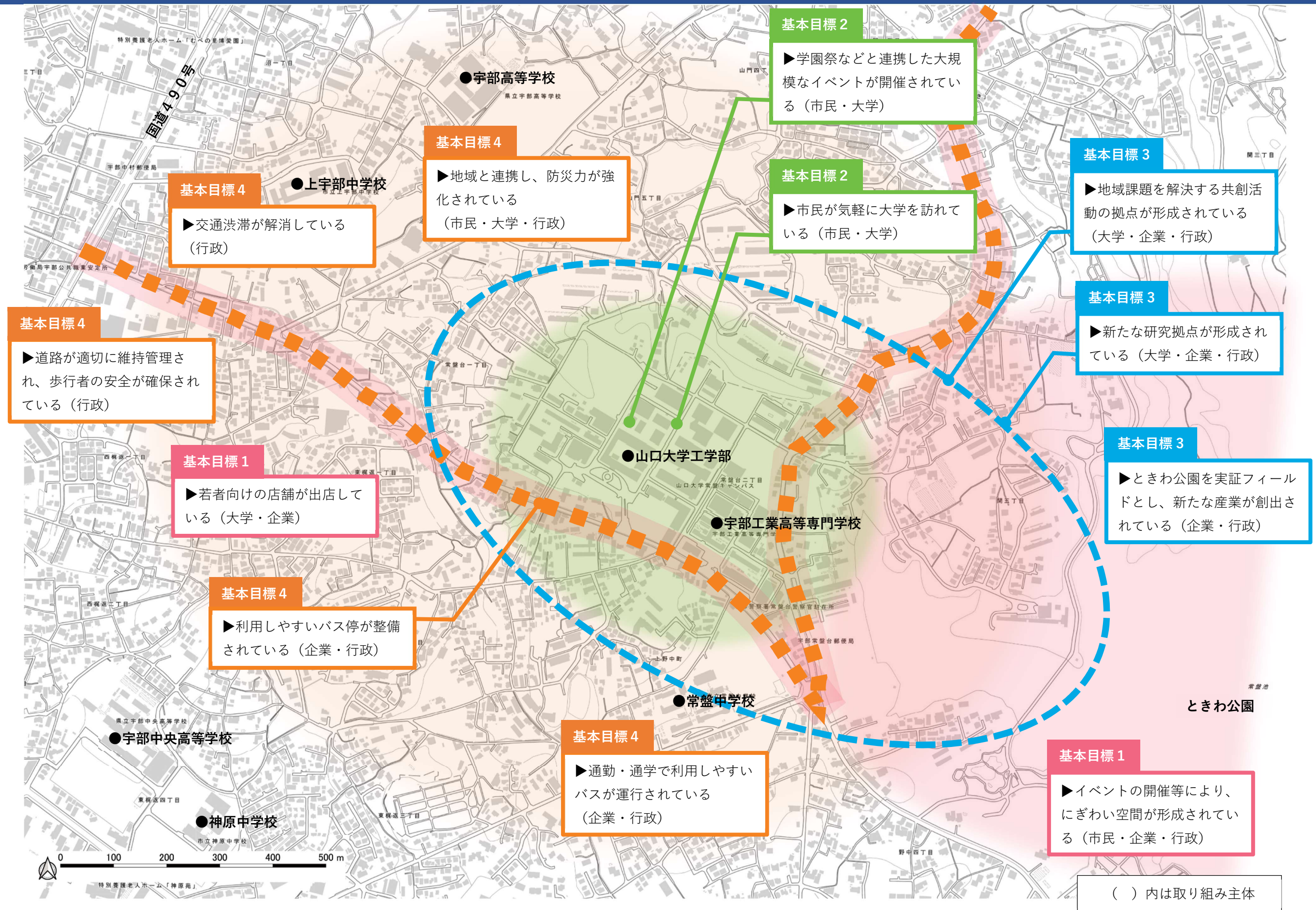
6 まちづくりの基本目標

目指すべきまちの姿を実現するため、まちづくりの方向性を踏まえ4つの基本目標を設定しました。

〇まちづくりの基本目標

基本目標 1	基本目標 2	基本目標 3	基本目標 4
<u>空間の有効活用による 新たなにぎわいづくり</u> ● 道路沿線ににぎわい創出に寄与する店舗等の誘致を促進し、にぎわいの連続性を図ります。 ● ときわ公園や空き店舗等の空間を活用して、新たなにぎわいの創出を図ります。	<u>開かれた学びと 交流の場づくり</u> ● 学びと交流ができる場として、大学・高専を活用します。 ● 市民が大学・高専を活用する機会やコミュニティ活動に参加しやすい場を創出します。	<u>教育・研究機関と企業との 連携体制づくり</u> ● 高等教育機関と企業、行政等が連携を強化し、特定分野において強みを持つ研究拠点を創出します。 ● 地域課題を共有・把握するとともに、地域の人材育成や課題解決を図るための、共創プラットフォームを構築します。	<u>安心・安全に暮らせる 環境づくり</u> ● 歩行者や自転車、自動車が安全に快適に移動できるような道路空間の創出を図ります。 ● バス等の公共交通環境の充実を図り、移動の利便性を高めます。 ● 高台の立地を活かし、地域の防災力の強化を図ります。
[店舗の誘致]  (コンフリ宇部)	[開かれた大学]  (山口大学工学部)	[研究拠点の創出]  (山口大学提供)	[公共交通の充実]  (宇部市営バス)
[未利用地の活用]  (若者クリエイティブコンテナ)	[交流の場]  (常盤台地区の未来を考えるワークショップ)	[地域の人材育成や地域課題の解決]  (うべスタートアップ HP)	[防災力の強化]  (宇部市総合防災訓練)

7 将来のイメージ



8 まちづくり構想の実現に向けて

まちづくり構想の実現に向けては、具体的な事業などの検討段階からさまざまなステークホルダーと連携し、目指すべきまちの姿を見据えた取り組みを進めることが重要です。特に、特性である若者の力を活かしながら、他にはない個性的なまちづくりを推進していきます。

また、地区の市民ひとり一人がまちづくりの担い手であるという意識を持ち、積極的にまちづくり活動に参加することが求められます。

